



人形劇ぶんぶくとこどもたち (令和7年11月14日 順慶寺本堂にて)

今月の一枚

順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺
2025年(令和7年)

12月号

VOL.386

◆◆ こどもたちの笑顔 ◆◆

順慶寺では、ここ三十年来、報恩講の初日にこども報恩講を実施している。かつては、本堂に入りきれないほどの子供が集まった時期もあったが、今もそのときに負けないくらいの子供たちの笑顔が本堂にあふれている。こうした子供たちによって、これまでも、そしてこれからもお寺には活気に満ちあふれる。

◆ 尊大なふるまいは我欲と慢心が増す ◆

今月の釈尊の言葉は、『ダンマパダ』より、「すべきこと、すべきでないことについてわたしの指示に従え」と

愚か者はこのように尊大にふるまい 欲求と傲慢が増大する。」

(第七十四偈)

からの出典です。

今月は、プライドや虚栄を誇張する人に対する、釈尊の教えです。ともすれば、自分の思いを中心にしがちな私たちですが、その思いは留まることがなく、さらなる我欲に発展し、やがて傲慢さが出てくるもので、仏教ではプライドは不必要なものとしてされています。

今月のところは、釈尊が祇園精舎に来ておられたときに、スタンマという仏弟子の中の長老について説かれた話からの出典です。

あるとき、仏縁の深かったチッタという資産家が、自身の所有するマンガロー園に僧院を建て、沢山の仏弟子を迎えました。その中には、二大仏弟子の舍利弗と目連も含まれており、舎

今月の釈尊の言葉

わが意に従えと

尊大にふるまえば

欲求と傲慢が増大する

『ダンマパダ』
第74偈より



若院のテーマカット NO.77



利弗の説法を聞くご縁を得たチッタは、深い智慧の境地に達することができました。

喜んだチッタは、さらに千人の比丘を食事招待しました。ところが、その中に、スタンマ長老の名前がなく、スタンマ長老はすっかり腹を立ててしまいました。それを知ったチッタが慌ててスタンマ長老を招待しましたが、そのことがさらにスタンマ長老のプライドを傷つけてしまいました。腹に据えかねたスタンマ長老は、釈尊に事の次第を告げ口しました。しかし、釈尊は、素早くスタンマ長老の愚行に思い至り、チッタに謝るように伝えたとされています。

釈尊に告げ口をしたスタンマ長老のことはいち早くうわさになり、それを知ったチツタは大変落ち込みました。しかし、釈尊に諭されたスタンマ長老が、自身の思いを改心して心から謝ったので、チツタはスタンマ長老のことを許したということです。

◇意味なく卑下をしてはいけない◇

仏教では、過度な自尊心や傲慢さ、他人との比較から生まれる「①マーナ(慢)」は、苦しみを生む原因とされます。ただ、自尊心や自信を失うことは、意欲の低下を生み、生き甲斐を感じなくなってしまう。

問題なのは、自分のものさしで事柄を見ていくことで、優越感や劣等感を生んでいるという実態です。大徳寺の開祖である、②大燈國師は、「水の中を尋ねても見よ浪はなし

①マーナ

慢(まん)とはサンスクリット語のマーナに由来し、仏教が教える煩惱のひとつである。他人と比較して思い上がることを言う。慢は渴愛(タンハー)より生まれる。俗に我慢といい、我が身のみ頼みて人を侮るような心を指す。また、慢・過慢・慢過慢・我慢・増上慢・卑慢・邪慢の七慢の総称としても用いる。(Wikipediaより)

②大燈國師

宗峰妙超は、鎌倉時代末期の臨済宗の僧。京都大徳寺の開祖。大燈國師の名で知られる。禅風は厳格で、容赦ない厳しさをもって人に接し、深く自己の悟境を掘り下げていくことを重視し、唐代の禅風の復活を志向した。自ら公案をつくって弟子を育成し、教化においてほとんど方便を使わず、正面より禅の極みを打ち出した。(Wikipediaより)

されども波は水よりぞたつ」と教えました。浪がたつ原因を、水の中に尋ねてみても、水の中には何も

ない。ところが、事実、波は水の中から現れているというのです。このことを心に置き換えてみると、心に沸き起こる様々な思いは、その原因を求めてみても、実はよく分からないものだという事です。それなのに、あれが問題だから正さなくてはならないとか、あれが嫌いだから無くさなくてはならないと思ってしまうのが私たちの日常です。しかも、自分のものさしで事柄を計り、良し悪しを決めてしまっています。

実は、どんなことでも、様々なご縁によって自身の心が波立つことも分らないのに、意味なくあれがいいとか悪いとか判断する、自身の愚かさが見えてきます。



12月に、仏教の三大行事の一つがあると聞きました。仏教三大行事ってどんなことですか。



仏教三大行事とは、お釈迦様の一生の間にあった大きな出来事の三つを言います。一つ目は、灌仏会。これは、4月8日にお釈迦様が誕生されたので、この日を祝う行事です。日本では花まつりとしてよく祝っていますが、スリランカなどではヴェサーカ祭として2月15日(太陰暦)に行われています。順慶寺でもタケノコ掘りの当日に花まつりをしてい

ますのでおなじみですね。二つ目は、お釈迦様が悟りを開かれた、12月8日の成道会を言います。お釈迦様は、29歳で出家し35歳まで苦行を続けましたが、なかなか悟りを得られず、ついに苦行を中止されました。その後、菩提樹の下で静かに座禅され、12月8日に暁の明星を見て、ようやく悟りに至りました。京都では、この日に大根焚を食べる習慣があるそうです。最後の三つ目は、お釈迦様が亡くなられた日である、2月15日に涅槃会が開かれます。涅槃は煩惱が吹き消されたことを言いますから、お釈迦様ですら、生きている間には煩惱が消え去らなかつたことが分かります。涅槃会の当日には、立派な涅槃図が飾られるお寺もあります。順慶寺の御門徒のお宅にも涅槃図がある方もあります。以上の三つが仏教三大行事です。

《第六十八回 カレーライス》

当山報恩講一日目は、毎年子ども報恩講をお勤めしていただきます。今年、今になって大変ありがたいことだと感じています。

毎年、おつとめやお話、人形劇などをして、最後にカレーライスを出しますが、今年も私が子どもの頃に参加していたころから変わらない味です。

お寺とともに

「落ち葉掃き」



今年もあつという間に12月。ついこの間まで暑さでフーフーしていたのが、境内の木々もすっかり紅葉して、順番に落ち葉を散らしています。

朝一番、ほうきで落ち葉掃除をしていると、様々考えることが浮かび、頭の整理ができるので、貴重な時間となっています。何より自坊の報恩講が終わって、心穏やかにお掃除できるうれしさ。実は沢山の落ち葉に囲まれたこの季節が好きです。

とはいえ、年の瀬に向け一つひとつ用事を済ませていかななくてはならないので、ゆっくりお掃除ともいかず…。そうこうするうちにまた年末の慌ただしさがやってきます。今年こそは、余裕をもって新年を迎えられるようにと、あれこれ考えますがどうなることやら。

毎朝お掃除しても、またすぐ落ち葉だらけになる境内を眺めながら、何事も始まりも終わりもないのかもしれないと苦笑しています。

絶好の好天の中

令和七年度当山報恩講を厳修

さる11月14日(金)から16日(日)の三ヶ日、順慶寺の最大行事である報恩講が厳修され、絶好の好天に多くの方が順慶寺に参詣されました。

暑くもなく、寒くもなく、絶好の秋晴れが続いた。今年の報恩講は、最終日に地域防災訓練が重なったこともあり、影響が懸念されましたが、本堂には大勢の参詣者が訪れました。

プロの人形劇の上演

報恩講初日は、午後からの法要。参詣は、役員と数名の参詣者で、お勤めをしてから、全員で「東西分派」のビデオを観ました。

夕方からは、小学生を中心に二十名ほどの子供たちと、保護者の方がお参



▲今年みんなのコーラス (15日) ▼満堂の本堂 (16日)



めをしました。三十名ほどの助音講の皆さんが先導し、本堂にいつぱいの声明がこだましました。

二日目の午前には、「みめぐみの」「ちいちのはなの中よりは」などの曲をむつみ会を中心としたコーラスと、参詣者の皆さんとで歌いました。

三日目の午後は、御満座法要として、雅楽の附物がついた、荘厳な声明をしました。今年も助音講の中に、若い山門会の皆さんが加わり、一層大きな声でお勤めをすることができました。

法話には、今年も飛島の飯田真宏先生と津島の宇治谷頭先生。お二人ともユーモアと心に響くエピソードを交えて、お話をして下さいました。

心のこもったお齋に舌鼓

お齋の準備は、9名のお勝手会の皆さん。毎年、報恩講に合わせて寄進して下さいる大根を、味の十分浸みた大根焚にしてくださり、こんにやくやゴボウも絶妙の味付けに仕上げ、松花堂弁当風に盛り付けて下さいます。今年のお齋もピカイチと評判で、参詣の皆さんは、本当に喜んでいかれました。

【報恩講特別寄進】

〔御仏供米一俵〕塚本敬様、岡川経康様、〔お斎用大根〕鈴木市成様、〔本堂仏華用菊各種〕相木弘子様、〔お斎用野菜〕お勝手会の皆様、他多数

11月度護国寺会物故者(敬称略)

智徳院釋尼三明

10月31日寂 岡本三千代(96)

市場下組 岡本篤樹様の母

慈圓院釋尼嘉禎

11月1日寂 岩間禎子(88)

高畑組 岩間喜久美様の義母

真徳院釋尼妙洋

11月22日寂 塚本洋子(77)

大府市 塚本能央様の母

3名の順慶寺護国寺会員の方が生前の役割を終えられ、浄土におかえりになられました。合掌



編集部短信

◆刈谷市と刈谷市仏教会の防災協定正式締結 〓 さる11月4日、刈谷市と刈谷市仏教会の間で、災害時における一時避難場所の提供、遺体の一時安置などの条項を盛り込んだ、協定書が正式に締結。刈谷市仏教会が正式に防災に協力することとなった。

◆庫裏の耐震検分実施 〓 さる11月6日・7日の両日、先の本堂修復工事を施工した、亀山建設により、庫裏の耐震強度などの検分が実施された。白蟻被害などの影響も含めて専門家の状況判断が待たれる。

◆報恩講を前に境内等庭木を整備 〓 さる11月5日から7日、西尾市の庭木によって、境内の庭木の剪定がなされた。その際、松食い被害のあった松二本の伐採も検討されたが、結論は先送りとなった。

◆本山報恩講に8名団参 〓 さる11月21日、岡崎教区21組主催の本山報恩講団参が実施され、順慶寺からは8名の参加があった。今回、初めて若院が団参に同行した。

編集雑記

現在、中国との関係が悪化しています。中国は、仏教や政治、漢字や文化も教えてくれた大恩人ですが、第二次世界大戦以降は、共産党によって、帝国主義に打ち克つた国として今日まで生きています。隣国として、仲良くしていきたい半面、過去の事実が現在まで影を落とし、様々な努力によって、多くの交流が生まれています。が、根底にある思いが、ふとしたきっかけで蘇ってきます。どこまで行っても人間社会は難しいものだと思えます。(住)

.....

今年始めて二十一組の報恩講団参に参加しました。心地の良い快晴に恵まれ、やはり本山でのお勤めは特別なものを感じました。(若)



12月の主な行事予定

編集・発行人 池浦裕哉
印刷・発行所 順慶寺内

真宗大谷派順慶寺
郵便番号 四四八〇〇〇四
愛知県刈谷市泉町池浦二

連絡 電話 〇五六(三)二九二四
FAX 〇五六(三)五五三三
郵送 郵送料毎届月(年間千二百円)
振替 〇〇八三〇一〇一六二六九

会員 護身会員には五百円にて
一年間郵送をいたします。
インターネット
URL: http://www.junkyoji.com/
E-MAIL: support@junkyoji.com

日	曜	行事内容	掃除当番
1	月	寺カフェ(9:00~、順慶寺本堂南落間他) お楽しみ会(14:00、順慶寺本堂)	
2	火		
3	水		
4	木	落合組お取越	木-1
5	金		
6	土		
7	日		
8	月	西丘組お取越 来迎寺組お取越	
9	火		
10	水	一里山組お取越	
11	木	近崎組お取越	木-2
12	金	順和会ゴルフコンペ(貞宝GC)	
13	土		
14	日		

15	月	真宗講座(16:00、順慶寺本堂)	
16	火		
17	水		
18	木		木-3
19	金		
20	土	順慶寺子ども会(9:00、順慶寺本堂)	
21	日		
22	月	北尾組お取越	
23	火	平松組お取越	
24	水		
25	木		木-4
26	金		
27	土	年末大掃除(8:30、順慶寺本堂前に集合)	
28	日	宗祖聖人御命日(7:00、順慶寺本堂)	
29	月		
30	火		
31	水	年越し勤行(23:45~、順慶寺本堂他)	

12月行事内容 詳細

年越し勤行(修正会)

12月31日(水) 23時45分
~1月1日(木) 1時00分終了

順慶寺本堂にて

令和7年、大阪万博が開催され、10月には日本初の女性首相が誕生し、新たなページが開かれました。

そんな中、強く懸念されたのは、「二〇二五年問題」と言われる、国民の五人に一人が後期高齢者(七十五歳以上)となること。雇用、福祉など幅広い面で影響がでることが予測されています。その背景には、急激に進む少子化があるとされますが、実生活では社会保険料が値上げになったり、医療費の負担額が増加したりと、家計を直撃することはかりでした。

また、人口減少により、限界集落などや耕作放棄地が増え、野生の熊の棲息範囲が広まって、人との接触が増え、深刻な問題となっています。

いずれも、若い人の減少が根底にあります。これからの時代が心配です。大晦日、除夜の鐘を打って一年の煩惱を打消し、御本尊の前でお勤めをして、心新たに新年を迎えましょう。

好評につき
今年もおきからのお年玉

年越し勤行の右記の時間に、本堂で正信偈のお勤めをされたい方に、寺からのお年玉として、もれなく、粗品を差し上げます。お楽しみに。

お知らせ

- 年末大掃除について
恒例の年末大掃除を12月27日に開催します。本堂、境内、庫裏の大掃除を役員、クリーン会他の皆さんで行います。
- 12月の寺カフェは琴のしらべ
12月の寺カフェでは、恒例の琴の調べを、ちぎの会の皆さんに披露していただきます。皆さんと、琴に合わせて懐かしい童謡も歌う予定です。なお、1月11日には恒例の新春寺カフェ寄席

が開催される予定です。

- 本堂と庫裏で前月行事のスライドを上映開始
報恩講で、10月の行事を試験的にスライド上映したところ、参詣者から好評を得たので、以降も前月の行事を撮影したスライドを、本堂外陣北側と庫裏にて朝6時から夕方6時まで連続上映することにします。上映開始は、11月28日、親鸞聖人御正忌報恩講の当日から。

じゅんこのときめき歳時記

煤払い

みなさん、11月も終わりになったら、一気に寒くなりましたね。あつという間に秋が過ぎてしまったようで、少し寂しい気持ちです。

12月になると、新しい年を迎えるために、大掃除をします。順慶寺でも12月27日に、役員さんたちが大掃除をしています。大掃除の始まりは、江戸時代、江戸城にて12月13日に日にちを決めて、煤払いをしたことに端を発しているそうです。

くれるのはありがたいですね。仏教では、鬼は迷いの象徴として、外に出てくるものではなく、心に宿るものとされていると聞きましたが、お寺でも煤払いは年末にするのが一般的です。

仏壇に顔入れて
煤払いけり
永方裕子



因みに12月13日は、鬼宿日と呼ばれ、約一か月に一度訪れる、鬼が宿に籠る吉日で、悪いことが起こらないとされている日だそうです。鬼が休んで